

令和6年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書（前期）

令和6年8月22日作成

校長 矢吹 和信

記述者 教頭 雨宮 文

学校教育目標

「思いやりの心と主体性・創造性を備えた白根巨摩中生の育成」

- ・学ぶ喜び・創り出す喜びを知り、主体的に学習する生徒
- ・正義を尊び、思いやりをもつ心豊かな生徒
- ・素直に見聞きし、考え、お互いを高め合う生徒
- ・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

重点取組

1 学習意欲と確かな学力の向上

- ①教材研究の充実、効果的な授業の組み立て、学び合いを通しての深い学びの実現
- ②信頼関係が保障される学級集団づくり
- ③ICTの積極的な活用
- ④家庭学習のさらなる改善

2 教育課程の改善と小中一貫教育に向けた取組の推進

- ①本校の特長を生かす教育課程への改善
- ②9年間を見通した教育課程の編成と改善
- ③小中間での交流の推進（職員、児童生徒）
- ④小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の促進

3 生徒会活動における「4つのこだわり」と創造的な特別活動の推進

- ①生徒会が掲げる「4つのこだわり」（挨拶、清掃、時間、服装）の、生徒主体での推進・充実
- ②これまでの成果をもとにした創造的な特別活動の推進

I 全体評価

※A:5点、B:4点、C:2点、D:1点と数値で換算し、平均4.0を目標と考えた。全20項目が4.0を上回る結果となった。（令和6年度前期も全ての項目が4.0を上回った。）得点分布に関しては以下のとおりである。

4.5以上：14項目 / 4.5未満：6項目

総合的な平均が4.6（昨年度4.6）となったことは、一人一人の職員の意識や実践が高い水準を保っていると評価できる。学習においては、「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、授業の在り方や評価に関しても徐々に共通理解が図られつつある。また、校内研の研究テーマ「聴き合い 学び合い 互いを高め合う生徒の育成」のもと、少しずつ授業の中での話し合い活動も増えてきている。評価に関しては、3観点の資質能力でみとる学習評価の定着が進みつつあるが、観点のごとの評価の方法等については今後もさらなる共通理解を図っていく必要がある。

課題となっている点は、授業でのICTの有効活用、部活動指導、家庭学習の定着の3点である。1人1台端末の活用については教科や教師個人により活用頻度に差が生まれている。職員に対する研修も定期的に行いながら、職員間の情報共有を密にして、授業等での活用を推進していくとともに、端末の持ち帰りや家庭学習での活用についても推進していきたい。また、日常的に職員室での会話の中で、ICTを取り入れた授業実践についての話題がでるような雰囲気づくりも行っていきたい。部活動については、生徒との関わりやその競技等、教科等とは違う専門性等があり、その意義は深いものの教職員への負担等、依然として課題は多い。今年度は3つの部活動で部活動支援員の支援を頂いている。今後も引き続き地域との連携を含め、部活動の在り方について協議・検討していく必要がある。家庭学習については週末課題（タイアップ・チャレンジ）の取組が4年目となり、定着が図られてきた。今後は、家庭学習における課題の質や方法についても検討していきたい。

II 各領域の評価	
1 学校運営	
達成状況	<p>◇領域平均は4.6であり、学校教育目標の具現化に向けて、職員の互いの協力体制が整っていると見える。</p> <p>◇報告、連絡、相談、確認を適切に行っており、職場相互の信頼関係も良好である。</p> <p>◇校務分掌等への取組意識は高く、多くは達成度が高いと考えられる。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが学校経営方針（教育重点目標）を十分に理解し、昨年度の成果と課題にもとづいた教育活動を生徒の実態に応じて相互に連携しながら推進していく。 ・学校全体の教育活動に対して、組織的に取り組めるように細部に対しても状況を共有し、共通理解の中で検討・改善を行っていく。 ・各自がライフワークバランスを意識し、勤務効率を考えた働き方について意識を高めるとともに、校務等へのICTの積極的な活用を図り、組織としての働き方改革も推進していく。また、教員のメンタルヘルスについて、管理職が細心の注意を払うよう心がけ、同僚性・協働性のある職場の構築に務める。
2 教科指導	
達成状況	<p>◇領域平均は4.4である。家庭学習とICTの活用に関して課題が残る。</p> <p>◇教師アンケート⑤「学習指導要領を踏まえ、子ども主体の授業づくりにむけ、授業改善や適切な評価を行っている」は4.6となっており、教科指導や評価に関しての共通理解が進んできていることがうかがえる。ただ、生徒アンケートの授業の領域の評価の「授業の楽しさ」「授業の分かりやすさ」の値が他の項目と比べるとやや低いので、生徒の声や実態を踏まえた授業改善が必要である。</p> <p>◇教師アンケート⑦「家庭学習の定着」においては、昨年度とかわらず、4.3である。「タイアップチャレンジ等」の週末課題の取組が定着し、すこしずつ成果は上がっている。生徒アンケートの週末課題の取組についての肯定的回答は昨年度と同様であった。やる生徒とそうでない生徒の差も見られることを踏まえ、さらなる取組の推進が必要となる。週末課題以外の家庭学習の定着についても、今後も検討していく必要がある。</p> <p>◇教師アンケート⑧「授業へのパソコンの導入」については、昨年度より0.4ポイント上昇した。研究も進み、共通理解は図られてきているが、日常的かつより効果的な活用については今後、さらに力を入れていくことが求められている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が一斉説明を行い、生徒がそれを聞く授業形態から、子ども主体の授業へ改善を図り、確かな学力の向上を目指していけるよう、校内研究の中で研究・研修を深めていく。 ・オンライン等も積極的に活用し、各種研修や研究会等への参加などを促し、授業の指導方法の共有や職員の資質能力の向上が図られるようにする。 ・管理職による日常的な授業観察を通して、指導・助言を継続して行う。 ・一人一実践の授業提案を通して、個人の授業力の向上を図る。また、同僚の授業を参観し、自分の授業に生かすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。 ・1人1台端末の授業への活用方法を教科ごとに研究し、日常的に使用する機会を増やしていく。定期的にICTに関する職員への研修を行い活用についての情報共有も進めて行く。 ・週末課題としての「タイアップ・チャレンジ」を継続し、家庭学習の時間の確保と、習慣化について粘り強い指導を行う。また、1人1台端末を活用した家庭学習と授業とのリンクを図る。

3 生徒指導について	
達成状況	<p>◇平均得点は4.8で、組織的な対応に取り組んでいるといえる。教師アンケート⑨「問題行動等の早期発見・早期対応・早期解決」の項目は、各担任・学年・生徒指導・部活動顧問等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。</p> <p>◇生徒アンケート②「学校でのきまりや約束事を守る」の項目の得点は4.6であり、生徒自身がきまりや約束を守っているという自覚をもっている。生徒会の4つのこだわりも定着しており、生徒自身で自主的に問題を解決していこうという態度が育ってきている。</p> <p>◇校内では生徒支援会議を定期的に関き、不登校等のケースをはじめとして学年で支援が必要が生徒について、丁寧に確認をし、情報共有している。また、定期的に悩み事アンケートを実施し、生徒の声を丁寧に聞き取るよう心がけた。</p> <p>◇積極的に専門機関との連携を行うことで、外部連携のもとで多角的な観点からの指導・支援につなげることができている。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に生徒の状況を共有しあい、様々な視点をもとに分析し、学校としてのきまりや指導重点について職員の共通理解のもと、生徒の指導にあたる。 ・問題行動が起こらないための未然防止として、生徒への声かけを積極的に行い、心の教育を充実させる。 ・本校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧にいき、必要に応じて関係機関とも連携していく。 ・生徒の連絡帳の記述や、悩みごと調査の実施やその後の面談等により、生徒が抱えている問題を正確に把握し、相談体制を整え、解決に向かうよう寄り添う指導を行う。
4 特別活動	
達成状況	<p>◇平均得点は4.5である。教員のアンケート結果は⑫「生徒の自治力の向上を目指し、計画的な指導を行っている」と生徒アンケートの⑨「行事への協力」の結果から、生徒たちが仲間と協力しあい、楽しく行事に取り組んでいることが分かる。</p> <p>◇教師アンケート⑬「部活動の指導」については、昨年度から支援をいただいている部活動支援員による指導が効果を得ていると考える。部活動の意義、目的を踏まえながら、生徒の健康・安全面に注意しながら意欲を引き出し、取組過程に自信をもたせるような指導をしていきたい。</p> <p>◇教師アンケート⑭「合唱」については、本校の伝統として受け継がれていっている合唱活動の意義を確認しあいながら、本校の特色のある活動として合唱活動の推進を行っている現状の成果である。</p>
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期は、生徒会年間最大行事である学園祭や合唱発表会がある。取組過程の中で、何を学ばせるのか、職員で共通理解を図りながら、生徒による自治的な活動となるよう支援・指導していく。 ・清掃については生徒会を中心に、4つのこだわりのひとつとして生徒総会でも重点的に取り組んでいくことが確認された。その目的を確認しあいながら、生徒の主体的な活動としていきたい。そのためには、生徒会本部・学年生徒会・学級役員をより効果的に機能させていく。 ・部活動においては、月に2回の割合で、月曜日は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」を年間を通して計画的に設け、「部活動なしの日」とするとともに、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していくと共に、部活動の在り方（朝練や下校時間の見直し等）については、今後の検討課題である。

5 健康安全・信頼される学校

<p>達成状況</p>	<p>◇平均得点は「健康安全」が4.8、「信頼される学校」が4.7となっている。「生徒の健康安全」や「感染防止対策への取組」については非常に意識が高く、感染症予防対策や熱中症対策等をはじめ、生徒への指導をもきめ細やかに行っていることがわかる。また、校舎の設備の整備についても非常に意識が高いが、危険を予測する中で、さらなる環境整備を行っていく必要がある。</p> <p>◇必要に応じた感染症防止対策に対する生徒への指導を行うとともに、熱中症対策や通学路の安全確保、自転車の乗り方を含めた下校指導等についてきめ細かい指導を行った。</p> <p>◇不審者情報や非常変災に備えて安全安心メールへの全家庭の登録をお願いしている。家庭に状況を素早く伝えたり、不安や不明な状況が無いよう努めている。今後も危機管理を強化していくことに加え、保護者にとって必要な情報を正確かつ迅速に提供するよう心がけていきたい。</p> <p>◇「健康安全」、「信頼される学校」の領域はすべての領域の中でも高い評価となった。全職員の意識の高さと同時に、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行うよう心掛けていくことがわかる。</p>
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検等により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行っている。今後も日常的に気づいたことを、迅速に情報共有しあい、生徒の安心安全を守れるようにしていく。さらに注意深く取り組みたい。 ・感染症、熱中症等への対策は引き続き状況に応じて臨機応変に対応し、生徒の教育活動を充実させていく。そのために、互いに協力・理解し合い指導を進めていく。 ・生徒への見取りをきめ細かく行い、様々な問題を未然に防いでいく。 ・リスクの先にある重大事態＝危機（クライシス）を想定し、学校事故の未然防止について組織的に共通理解する。 ・登下校時も職員の見守り指導を定期的実施し、安全な登下校指導を推進していく。 ・部活動指導について、様々な場面を想定し安全対策を検討していく。 ・「学校だより」、「学年だより」、「給食・保健・図書・進路だより」等学校からの情報発信を積極的に行うとともに、個々の生徒と担任との「やり取り帳」「悩み事・心配事調査」等を通して、生徒理解を深めていく。また、家庭との連携を密にし、生徒の健全育成に向けて一層努力していく。